

ふじのくに芸術祭2024(第64回静岡県芸術祭)演劇コンクール審査結果

令和6年12月15日

- 1 種 目 音楽・舞台芸術部門 演劇コンクール
- 2 会 場 県内各会場
- 3 期 間 令和6年6月1日(土)から12月8日(日)まで
- 4 参加団体数 7団体(招待参加1団体含む)
- 5 入 賞

賞	劇 団 名	寸 評
	脚 本	
	代 表 者	
静岡県芸術祭賞	MUNA-POCKET COFFEEHOUSE	認知・認識をテーマに分析と理解を描く。テンポの良い言葉遊び的なセリフ。観客が劇中で紙飛行機を飛ばす斬新な演出。難しい主題なのに観客を飽きさせず高いエンターティメント性が評価された。
	26th produce「紙」	
	永縄みゆき/永井宏明	
奨励賞	演劇ユニット FOX WORKS	19世紀のサンフランシスコが舞台。ほとんど知られていない実在した人物と彼を取り巻く人々との関わりを描いた作品。物語の発想にオリジナリティがあり、役者・音楽・ダンス・照明・衣装・メイクすべての要素が一体となったスケールの大きい作品。
	KOGITSUNE PROJECT 「SAVE」	
	狐野利典	
奨励賞	劇団静火	中学校の職員室が舞台。脚本そのものに独特な世界観がある。学校が抱えているネガティブな問題が多く組み込まれているのにコメディとして描かれている。俳優全員の確かな役作りと上質なコントの様な演技が評価された。
	遭難、	
	鳥居初江	
準奨励賞	劇団清見潟	地元の三保の高齢者グループホームが舞台。地域に根付いた劇団ならではの作品。分かりやすい内容で地元の話題や音楽で盛り上がり、観客が楽しんでいる様子に好感がもてた。
	三保の星条旗 with Music	
	望月誠司	

- 6 審査員 松永 智子 飯沼 司郎 他県民公募審査員4名
- 7 審査総評

今年も様々な団体に参加していただきました。各団体、それぞれ特徴があり、表現方法も多様でした。プロデュース公演については昨年に続いて参加があり、役者、スタッフ、観客等大勢の人が集まり、舞台もより規模の大きいものになり、プロデュース公演が若い世代を中心に定着しつつあると感じました。また一方で劇団の伝統を守り、単独で公演で地域に根付いている劇団もあります。いずれの団体も“観客に楽しんでもらいたい”という思いが伝わってきました。

審査員代表(松永 智子)